

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	赤からピンクへ！「桜と松の郷」花咲か爺さんプロジェクト
事業主体 (連絡先)	KIKAZARI 代表 市川 090-4543-5760
事業区分	(5) 環境保全・景観形成
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,491,804 円 (うち支援金：1,143,000 円)

#### 事業内容

筑北村には、桜花木と正月飾り用の三段松の2つの木の産業がある。しかし桜花木は生産者が高齢化していて後継者がおらず、三段松は松枯れの広がりにより継続的な生産が難しい状況にある。松枯れで地域の景観がイメージダウンする中で、2つの木の産業に付加価値をつけて盛り上げていき、桜と松を地域の風景として残るように活動している。

- ・桜花木畑で花見イベントの開催、フォトコンテスト準備
- ・坂井地域に桜の植樹 210 本、赤松の植樹 300 本
- ・松枯れ材や松枯れのリスクのある赤松の伐採
- ・桜の加温ハウスに薪ストーブを設置し、松枯れ材の活用することで地域の資源で地域産業が成り立つ仕組みができた
- ・桜花木廃棄材で草木染の腹巻「あずまやハラマキ」を商品化

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

ビニールハウス用薪ストーブの設置により、松枯れ材を桜花木の生産に有効活用する仕組みができた。地域の厄介者であった松枯れ材が、桜を咲かすために必要不可欠になり、積極的に松枯れした木の伐採を行うきっかけができた。また伐採した山に桜を植えることで、「赤からピンクへ！」を達成することができる。

継続的な活動により協力者が増えてきている。桜の廃棄材に関しては、昨年度商品化した桜の燻製チップを積極的に使いたいと企業とのつながりもできた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

松枯れ材を有効活用できる流れができたので、住民に働きかけて可能な限り伐採を進めていく。合わせて伐採跡地には桜を植える提案を積極的に行っていく。

また桜の廃棄材の有効活用を継続的に行っていく。まずは今まで商品化した、桜チップと草木染の腹巻の商品の質を協力業者と高めていき、地域ならではの商品として確立させていきたい。

今年度はきっかけ作りがメインであった。桜と松の郷ならではの、両産業にがっちりとした繋がりができたので、今後は継続的な活動ができるように運営をしていく。

桜の観光利用の部分はまだ弱いので、認知度を高めるために宣伝等を増やしていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【桜花木加温ハウスにビニールハウス用薪ストーブ導入】

#### 【目標・ねらい】

- ① 松枯れの山に桜を植樹
- ② 桜花木生産を地域の資源を活用して成り立たせる
- ③ 桜花木の廃棄材を 0 へ

#### ※自己評価【B】

#### 【理由】

ビニールハウス用薪ストーブの導入により、赤からピンクへ！を一步前進することができた。しかし桜と松の郷と言えるにはまだ活動の認知度が低い。